

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 10月 24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200338		
法人名	社会福祉法人IGL学園福祉会		
事業所名	IGLグループホーム西風新都		
所在地	〒731-3167 広島市安佐南区大塚西2丁目5-8 (電話) 082-848-3313 (代表) 082-848-3373 (直通)		
自己評価作成日	令和3年9月29日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200338-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200338-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年10月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

IGLグループホーム西風新都では、利用者様お一人おひとりの尊厳を守り、その人らしい生活を支えるケアを実践することで、充実した、寂しさや不安を感じない、楽しみのある生活が送られるよう支援しています。地域密着型施設として、フットワーク軽く地域行事に参加をしていますが、新型コロナウイルスの感染防止のため、地域交流・家族との時間作りが難しくなる中、利用者のご家族の関係が希薄にならないよう写真やメール・アイパット面会などの活用をしています。認知症ケアにチームで取り組み、職員同士がお互いに思いや考えを発信しやすい環境を作ることで、より良いケアを提供できるように努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

コロナ禍による自粛はあるが、最近の特徴的な取り組みとして第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」に深化が見られる。即ち事業所では面会制限下の中、基本的には家族との電話連絡を介した関係継続となっているが、ビデオメッセージ・メール・ズーム・ベランダ越し面会等、多彩な方法で支援をしている。5mの近距離面会で百寿の祝いに花を持ってきた娘に利用者が気付いて「こんなに太ってなかった」と言いながらもマスクを外して近づいてきたが、「来てはだめ」と感染を気遣う娘の姿もあった。第二に「本人と共に過ごし支えあう関係」に深化が見られる。即ち利用者の理解できない所で生活空間が狭まっているが、それに対し季節行事に工夫を凝らし、敬老会では職員は催し物の組体操で体を張り、リコーダー演奏では利用者に振り付けを覚えてもらい、合唱とのコラボレーション（双方の楽しみ作り）に繋がった。

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	I G Lの理念は、「隣人愛」、当グループホームの理念は「お一人お一人の思いを尊重し個人の能力に応じてその人らしい生活が送れるように支援します。」です。I G L全体・事業所内での職業倫理研修、朝礼でのコンセプトブックの読み合わせ、ケアミーティングなどで理解を深める働きかけを行っている。	各部署の担当職員が交替で毎朝職員手帳を唱和し、法人理念の意識付けを図っている。又、事業所の職業倫理研修で毎年ケア目標を策定し、その実践を理念の達成に繋ぐべく、事業所の基本方針に対する職員意見を記載させて、施設長補佐が各職員に返事を書き気づきを促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域の行事への積極的な参加、職場体験、夏祭りの開催などで地域交流を行ってきたが、新型コロナウイルス感染対策のためにすべて延期・中止となる。感染対応を最優先して、電話での連絡などを行っている。	現在はコロナ禍により季節ドライブ以外は自粛中だが、本来は町内会に加入し地域行事や近隣施設との合同風船バレー大会等にも参加していた。系列事業所の夏祭り等に地域住民やボランティアを受け入れる相互交流や地域の秋祭り・隣接こども園等で子ども達と世代間交流もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に対しての、認知症理解・支援をお伝えする機会が、コロナ感染対策最優先のため、開催できず皆無であった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	例年、近隣施設・地域の民生委員・関連している訪問看護・地域の社協・ご家族・利用者を対象に開催していたが、新型コロナウイルス感染対策が最優先となり、施設内開催となっている。会議記録をファックスで送信して共有した。	会議は現在コロナ禍により開催自粛となっているが、本来は小規模多機能型居宅介護と合同で定期的開催され、利用者・家族・地域住民・地域包括支援センター職員等が参加している。会議では事業所の活動報告等が行われ、参加他事業所の意見を事業所運営に活用している。	本来、多様な参加者があり活発な議論がなされていたが、コロナ禍の会議では近隣施設に書面による情報発信はあるが意見照会等はない。他の参加予定者とは情報共有が不十分で、事業所運営に関する情報の共有、意見聴取の仕組み作り等、コロナ禍における会議運営の再検討を期待したい。
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	広島市に自施設で行っている運営推進会議録を送付し、施設運営状況の情報提供を行っている。コロナ感染対策下ではあるが、市町の研修(認知症リーダー研修など)には積極的に参加し、スタッフの質の向上に努めている。	コロナ禍以前は地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加して情報共有していた。現在は市町担当者に運営推進会議資料を送信して情報共有をしている。市町担当者とは日頃から相談や報告を行い、行政主催の虐待・集団指導等の研修会への参加を通して協力関係の構築を図っている。	

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2ヶ月に1回、身体拘束についての勉強会を行い、基本知識の理解と、様々な事象について身体拘束の観点での考察を行っている。リスクを鑑みた観点での対応は、家族に相談報告を行い、十分に説明・理解を得るようにし、何よりも入居者へのかかわり方を工夫し、身体拘束しないケアの実践を意識している。玄関施錠はしていない。	研修会等を通して職員は「拘束をしない」必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。身体拘束廃止委員会等にて定期的な検証を行っている。4階事業所のエレベーター利用は見守り対応だが、居室では夜間センサーマットを設置し、対応する場合もある。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止法に関しては、定期的に勉強会を開催している。I G L全体研修・施設内研修での虐待防止に関する資料を必ず読み合わせを行い、スタッフ各人の感じたことを文書提出している。日ごろのケアの中でのグレーゾーンについて意識し、些細なことも相談・周知・家族への報告を行っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	認知症高齢者の人権を守るケアを、自分たちが実践するために、必要な考え方や倫理観について学ぶ機会を設けている。人権擁護に関する制度(自立支援事業・成年後見制度)について学ぶとともに、必要に応じ社会福祉士に相談を行っている。入居者一人ひとりの尊厳とは何か?尊厳が守られているのか?を問いながらケアを行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	「運営規定」「重要事項説明書」に基づき契約時の説明を行っている。電話やメールを使い、疑問・要望には即返答するようにしているとともに、感染対策のために新たに加わった制限なども、理解して頂けるように説明を行っている。たくさんご家族に話してもらい、聞きやすい雰囲気を作り、即対応することをモットーにしている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族に対しては、契約・面談・電話を受けた時には、「聞きたいことはありませんか?」と常に一言説明を加えるようにし、家族が言葉を発しやすい雰囲気を作るなどを心掛けている。意見の内容に対しては、必ず対応し結果を報告している。面会ができない分、家族と入居者のビデオレターやズームでの面会、離れた場所で姿を見ていただくなどの取り組みを行い生活の様子を伝えている。	家族とは面会・介護計画更新時等で意見・要望を把握し、職員とは連絡ノート・ケア会議等で情報共有をしている。現在はコロナ禍で面会自粛だが、家族と連絡をとり迅速な対応に努めている。家族の要望によりオンライン面会・ビデオレターや事業所での遠目の面会を実現した例がある。	

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のケアミーティングやユニット会議の際に意見を求め・改善策を提示するようにしている。職員の面接を適宜行うことで、運営に関する意見要望を引き出すようにしている。何よりも、平素の人間関係を大切にしておかかっている。	定期的なケア会議・リーダー会議・毎日の申し送り等の他、随時の個別面談を通して管理者は職員の意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案等に対する支援体制を採っている。職員の提案によりポジショニングクッションの導入により適正な座位姿勢の獲得に繋げた経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月2回のリーダー会議を行い、職員一人一人の勤務状況や問題点などを話し合っている。職員個人の事情に配慮したり、それぞれの能力を發揮して仕事ができる様に努めている。職員同士の関係性を良好に保てるように介入することもある。向上心・やりがいのある職場作りを意識して関わっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新任職員については、指導者を決めているが、管理者と一体になって「みんな育てる」をモットーに情報交換を行いながら、できるを伸ばす指導を心がけている。職員の力量に合わせた指導方法を、指導者が模索することを奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナウイルス感染症の対策のため、同業者との情報交換・交流は直接には不可能な状況である。必要に応じて、メールや電話でのやり取りとなっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	新規ご利用開始の際には、人的物的環境に慣れていただく事、入居者がさみしさや、取り残された気分や、不安にならないことを目標にし、親切で優しい対応、本人のペースに沿った生活、自分らしく過ごせる雰囲気作りを最優先している。積極的に御家族とも情報交換を行い協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ <u>エーデルワイス</u> )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている。	利用開始時に、御家族の心境を把握し、困惑している所、不安・不明確な点を解決するとともに、十分に話を聞き、入居者との関係性を理解することで、何でも相談でき、言える関係を作り、信頼関係を結ぶ。家族の話を遮らないで聞くことを徹底して行い、気持ちを感じ、伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用開始、初期に必要なサービスは様々であるが、グループホーム入居では、他のサービス利用では、医療に関する事、福祉用具に関する事などがあげられる。初期の段階ではできる限り情報収集に努めアセスメントを行い健康状態・ADLの維持向上など、本人・ご家族の希望されるサービスに対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	御利用者を、1人の生活者としてとらえ、日々の暮らしが入居者の暮らしとして時間が流れるように、ともに日常生活の様々な事(洗濯・掃除・洗い物・散歩・衣類のかたづけ・趣味の時間)を行い、満足感が味わえる環境にする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族には成り代われない。コロナ下ではあるが、御家族は「会えないので顔を忘れてしまうのではないかと不安を口にされることが多い。ご家族の話題での会話、写真、ビデオレター、遠目の面会などを取り入れ家族との連絡を密にし、入居者との関係性が希薄にならないようにする。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	誰にとっても、大切な場所や人がいる。既に存在しなくなっている場合もある。コロナ感染対策の為に、面会できない状況が続く中、少しでも家族やなじみの場所との関係性が続くように、工夫をしている。手紙や贈り物が届いた場合には、電話で会話をするなど行っている。	「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にしているが、現在はコロナ禍による面会制限のため、ズーム面会・ビデオレターや差し入れ持参の際に事業所で遠目の面会や手紙に対しお礼の電話等、利用者・家族の気持ちに寄り添った支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロア内での利用者様の関係作りは日々行っている。会話が弾み楽しそうに笑いが起きる場面や、唱歌や童謡を誰ともなく歌われ大合唱になることもある。スタッフが、コミュニケーションを図りながら雰囲気作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も挨拶状を送ったり、写真を送ったりしている。家族からも現状の経過、電話等があり、施設を離れても関係作りは大切にしている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人お一人の人生を、出来るだけご本人御家族から教えてもらい、本人の希望や意向を把握するようにしている。ご本人の考え方や、経歴から今どのように過ごしたいのかを想像して、チームで共有し、ケアに生かすようにする。職員ではなく、本人だったらどう考えるかを問い合うようにしている。	利用者毎に担当者を決め、その方に深く関わりを持つことで思いを汲み取り介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。歩けなくなったらお終いという不安から歩行に過度の拘りを持つ利用者が少しでも休める様、他の余暇活動や作業に携わる事で思いに寄り添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ライフスタイルヒストリーをもとに、本人・家族の若い頃の写真や、普段のお話から生活歴を知り、ご本人と会話の中で経歴やそれに対する本人の感情を知るとともに、職員同士で情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の体調やADL、嗜好や生活習慣を把握して、その人らしくマイペースでの生活を送っていただけるように対応する。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ <u>エーデルワイス</u> )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者のニーズに合わせて、本人・家族・スタッフ間で意見交換・情報交換を行いながら、利用者らしい生活を支援できるように介護計画を作成している。毎月担当職員がケアプランのモニタリングを行いケアの方向性を示し共有している。</p>	<p>介護計画原案を毎月のケア会議で検討し、電話連絡等で家族の同意を得て本案としている。計画作成担当者が毎月のモニタリングを集約し半年を基本に計画を見直している。働き者だった利用者の家事への拘りを損なうことのない様に主体的な役割作りに繋がる立案に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録には、生活の様子や、体調などが把握できるように記録している。変化があった場合や介護方法の変更などは、記録で共有できるようにしている。チームで共通の記録を行い、統一したケアを心がけている。毎月、計画の実践を評価しモニタリングを共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>感染対策が最優先での、施設生活の中2ユニット間の行き来は行えている。家族支援が一番難しくなっている現状を踏まえて面会方法の工夫や、感染対策下での外出・会食など取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>新型コロナ感染症対策を最優先として施設サービスを行わざるを得ない状況であり、地域資源との協働は難しい状況であるが、新緑ドライブ・花見・気分転換ドライブ・散歩では施設外で季節を感じリラックスできるようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ選びは、御利用者の意思を尊重して行っている。18名の利用者で、6か所のクリニックにかかっている。往診での診療が多いが、緊急時の連絡は取れるようになっており、体調不良時の相談に応じてもらっている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、協力医を含め、近隣医6か所を主治医としている。協力医・協力歯科医等から月2回他、適宜往診もある。専門医の受診は家族の協力も得ながら行われている。系列訪問看護からも利用者の健康管理について適宜協力・支援を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ <u>エーデルワイス</u> )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護を受けている。日々のバイタル測定は看護師が行うことが多い。新型コロナウイルス感染症の蔓延もあり酸素濃度測定も行っている。介護と看護の連携により、皮膚剥離の処置・ポジショニングなどが行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調変化時の病院連絡・ご家族対応を行っている。入院時の情報提供、病院のソーシャルワーカーと連携し退院日の決定・状態確認・受け入れ準備を行っている。家族とともに、情報共有をした上で早期退院できるようにしている。その際、家族の病状理解への助言や退院後の施設生活のイメージ、不安緩和に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期における対応の希望や考えを御家族から情報を早めに得るようにしている。普段の御家族との関係をより良いものにし、家族の希望を知り当施設でできる介護を十分に説明理解を得るように心がけている。	要望があれば看取りを行う方針である。契約時に「看取りに関する指針」を説明・了解を得ている。重度化した際は家族・医師・訪問看護師等で話し合いを行い病院・施設との連携も含め、指針に基づき適切な支援を行う方針である。マニュアルも整備され過去に看取り経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変、誤嚥窒息、転倒転落に加え新型コロナウイルス感染症感染対策などの研修を開催している。参加できない場合には、読み合わせや、感想を述べ合うことで理解を深めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域との「災害時協力体制」を締結し協力体制を整えている。消防訓練は年2回行っている。災害時の備品・食料の点検や、連絡網の確認などを定期的に行っている。	階下系列事業所と合同で年2回の避難訓練を夜間を想定し、利用者も参加して実施している。ハザードマップでは非該当地域だが、地域の自主防災会等と防災対策連絡協議会を立ち上げ協定の締結等、協力体制を築いている。日頃の避難経路や災害に備えた備蓄の整備にも努めている。	



自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者は、名字に○○さんと呼ぶ。あだ名やちゃんづけでは呼ばないように徹底する。排泄介助時には、ドアを必ず閉めておく。入室時にはノック、本人に断って入室するなどを行う。不安な訴えや記憶錯誤などにも否定や指摘ではなく、傾聴の姿勢を常に持ち優しく親切に対応するようにして尊厳を傷つけない対応をする。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への対応も不適切な事例には指導や気づきを促すが、職員間で話しやすい雰囲気もある。個人情報についても会報誌への掲載や申し送りの際に居室番号や指差しで匿名化する等、配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ささやかな事であっても、ご本人の気持ちや希望を表出できるような問いかけや関係の構築をするように注意している。職員主導で時間が流れないように、配慮する。日々のケアの中で、利用者の希望の表出ができる様な声かけについて、ミーティングで話し合いを持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は、利用者全員の様子を把握しながら、一人一人との関わりを持つようにしている。しっかり話を聞いたり、楽しい会話をしたりすることで、その人らしさが出せるものである。入浴は個別対応となるので、ゆっくりと話を聞いている。業務優先ではなく、手を止めて利用者の言葉に耳を傾けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容・整髪時にお化粧をされる方もおられるので対応している。理美容サービスを入れ、白髪染めやパーマを定期的に行っている。また、衣類の選択は本人の意向を尊重するようにしている。髭剃りも毎日行うようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、人にとって最も身近な楽しみと言える。また、準備や片付けに関わるのも役割を果たしたり、役に立つという実感を持てるチャンスであるので、毎回茶わんふきなどを利用者と一緒にを行うようにしている。季節や行事に応じた食事、誕生日のケーキ、季節の果物などを楽しむようにしている。	法人管理栄養士の献立により施設厨房で調理された副食が届き、職員が仕上げて主食と汁物を添えて提供している。利用者は屋上で午後喫茶を楽しんだり、後片付け等、役割に応じた手伝いもしている。利用者によりポジショニングクッション等で食事姿勢を整えることもある。	

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量のチェックは全員行っている。必要に応じて、体重測定、細かな摂取量の把握、水分摂取量把握を行っている。貧血・栄養状態を見ながら、栄養補助食品、嚥下障害に対応した食事内容などを工夫し、楽しむ食事、栄養満点の食事を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔衛生・ケアを行い、問題が生じた場合には歯科に相談を行っている。義歯管理や口腔内の観察を習慣的に行っている。口臭がきつい方は、主治医に相談したこともある。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄は一人一人チェックを行っている。排泄行為時の転倒予防や安全確保には十分に配慮し環境を整えている。介護5の方も、ポータブルトイレを使用し座っての排便を行っている。排泄パターンを知り、排泄行動の転倒リスクを低減したことで、リハパンから布パンツに移行できたケースがあった。排泄習慣を把握し、自立支援を行っている。	排泄管理表でパターンを把握しトイレ誘導を基本としている。退院時の紙おむつから布パンツへの移行例等、状態像に合わせた自立支援を行っている。各居室にはトイレが設置され、夜間排泄時の転倒防止の為、床センサーマットを設置する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排便習慣を知り、体を動かすことや、水分・乳製品の摂取・食事の工夫などを行っている。看護師による腸蠕動確認や直腸内の便の確認を行い対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手配で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	状態により、個浴・機械浴を選択している。入浴は最高のリラックスタイムになる、職員とも個別でのかかわりをゆっくり持てる時間にもなっている。入浴に拒否的な方には、なじみの関係作りや複数人でのかかわりの持ち方などの工夫をしている。	週2回の午後浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。半埋め込み式家庭浴槽に手すり等の環境整備の他、事業所浴槽で入浴困難な方には併設事業所の機械浴での対応も可能である。入浴を大事なコミュニケーション空間と捉えている。	

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ <u>エーデルワイス</u> )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	一人一人の年齢・体調・精神状 態に合わせて、休息を取ってら うようにしている。夜間の覚醒 には、お付き合いをして、気持 ちよく再入眠できるように関 わっている。睡眠パターンを知 り、共有しケアに生かしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。	内服薬の内容、使用目的などを共 有するようにしている。不穏や 不安には薬に頼るだけでなく、 対応を検討する。浮腫や高血 圧、徐脈など主治医と連絡を 取り情報提供しながら内服薬 のコントロールを行い、体調を 整える。服薬ミスが無いよう に、ルール化して確認を怠ら ない介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	日々の生活リズムを整え、役割 を持ってもらうようにしている。 (洗濯もの、食器など)誕生会、 花見ドライブ、息抜き散歩・ド ライブ、敬老会などお楽しみは その日だけでなく準備段階か ら、利用者を巻き込んでワクワク してもらえるように工夫をして いる。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。	日常的な外出は、新型コロナ感 染対策下では難しいが、敷地 内で戸外を歩いたりして気分 転換を図っている。	以前は地域行事等にも参加して いたが、コロナ禍で外出は当 面の間自粛をしている。天候 が良ければ駐車場への息抜き 散歩や季節行事としてお花見 ・紅葉狩りドライブを行い、普 段は行けないような場所で利 用者も「来年も来れるかのう 」と期待しながら「非日常」 を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	現在は、新型コロナ感染対策 のため、御家族との外出、職 員との買い物などは一切行っ ていない。ワクチン接種も済 み、コロナ対策が緩和されたら 行いたいと思う。		

自己評価	外部評価	項目(アルペンローゼ(エーデルワイス))	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	新型コロナ感染対策のため、面会が一切できず、外出もままならない日々である。電話やビデオレター、などを使い御家族との交流を行っている。差し入れを持ってこられた時に、離れた距離で姿を見ていただくなども行って、顔を見てもらう機会を作っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	明るくなったらカーテンを開け、ご自身で天気を確認できるようにしている。午前中の日差しを使って日向ぼっこを取り入れている。季節の花(アジサイ・彼岸花・カーネーション)を飾ることで季節感を出している。カウンターを使ってお茶をしたり、ソファを置いて休憩できるようにしている。	事業所は建物の4階で眺望や採光に恵まれ、窓越しにある回廊式のベランダからも四季の移ろいがわかるようにしている。リビング内も活けた花や正月・七夕等、行事の飾り付けで季節が感じられるよう工夫している。又、利用者にもマスクの着用を習慣づけ、感染症対策で消毒や換気等にも万全を期している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間での、テーブルの配置で、仲のいい方が談笑できるように、また、トラブルが発生しにくくなるように工夫をしている。カウンターやソファなど遠慮なく利用してもらえるように声をかけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の家具は持ち込んで頂き慣れ親しんだものを使ってもらっている。家族の写真などを置いたり、自分の習字などの作品を飾っている方もある。転倒リスクが最低限となり、ご本人が安心できる空間を提供できるようにしている。	居室にはベッド・専用トイレ・洗面所が備え付けられ、テレビ等、使い慣れた物やアルバム等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。各ユニットに和室もあり多様な生活空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はバリアフリーで、ベットや家具・椅子などのレイアウトは自由に決める事が出来るようにしてある。利用者の身体状況に応じた快適な空間作りを行う。居室内では、自分なりに自由に過ごしていただくようにしている。		

V アウトカム項目(エーデルワイス) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	✓	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	✓	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		③たまに
		✓	④ほとんどない
66	職員は、生き活きと働けている		①大いに増えている
		✓	②少しずつ増えている
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		③あまり増えていない
			④全くいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
71	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
73	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	I G Lの理念は、「隣人愛」、当グループホームの理念は「お一人お一人の思いを尊重し個人の能力に応じてその人らしい生活が送れるように支援します。」です。I G L全体・事業所内での職業倫理研修、朝礼でのコンセプトブックの読み合わせ、ケアミーティングなどで理解を深める働きかけを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域の行事への積極的な参加、職場体験、夏祭りの開催などで地域交流を行ってきたが、新型コロナウイルス感染対策のためにすべて延期・中止となる。感染対応を最優先して、電話での連絡などを取っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に対しての、認知症理解・支援をお伝えする機会が、コロナ感染対策最優先のため、開催できず皆無であった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	例年、近隣施設・地域の民生委員・関連している訪問看護・地域の社協・ご家族・利用者を対象に開催していたが、新型コロナウイルス感染対策が最優先となり、施設内開催となっている。会議記録をファックスで送信して共有した。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	広島市に自施設で行っている運営推進会議録を送付し、施設運営状況の情報提供を行っている。コロナ感染対策下ではあるが、市町の研修（認知症リーダー研修など）には積極的に参加し、スタッフの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2ヶ月に1回、身体拘束についての勉強会を行い、基本知識の理解と、様々な事象について身体拘束の観点での考察を行っている。リスクを鑑みた観点での対応は、家族に相談報告を行い、十分に説明・理解を得るようにし、何よりも入居者へのかかわり方の工夫し、身体拘束しないケアの実践を意識している。玄関施錠はしていない。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止法に関しては、定期的に勉強会を開催している。I G L 全体研修・施設内研修での虐待防止に関する資料を必ず読み合わせを行い、スタッフ各人の感じたことを文書提出している。日ごろのケアの中でのグレーゾーンについて意識し、些細なことも相談・周知・家族への報告を行っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	認知症高齢者の人権を守るケアを、自分たちが実践するために、必要な考え方や倫理観について学ぶ機会を設けている。人権擁護に関する制度（自立支援事業・成年後見制度）について学ぶとともに、必要に応じ社会福祉士に相談を行っている。入居者一人ひとりの尊厳とは何か？尊厳が守られているのか？を問いながらケアを行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	「運営規定」「重要事項説明書」に基づき契約時の説明を行っている。電話やメールを使い、疑問・要望には即返答するようにしているとともに、感染対策のために新たに加わった制限なども、理解して頂けるように説明を行っている。たくさんご家族に話してもらって、聞きやすい雰囲気を作り、即対応することをモットーにしている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族に対しては、契約・面談・電話を受けた時には、「聞きたいことはありませんか？」と常に一言説明を加えるようにし、家族が言葉を発しやすい雰囲気を作るなどを心掛けている。意見の内容に対しては、必ず対応し結果を報告している。面会ができない分、家族と入居者のビデオレターやズームでの面会、離れた場所で姿を見ていただくなどの取り組みを行い生活の様子を伝えている。		



自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のケアミーティングやユニット会議の際に意見を求め・改善策を提示するようにしている。職員の面接を適宜行うことで、運営に関する意見要望を引き出すようにしている。何よりも、平素の人間関係を大切にしておかかわっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月2回のリーダー会議を行い、職員一人一人の勤務状況や問題点などを話し合っている。職員個人の事情に配慮したり、それぞれの能力を發揮して仕事ができる様に努めている。職員同士の関係性を良好に保てるように介入することもある。向上心・やりがいのある職場作りを意識して関わっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新任職員については、指導者を決めているが、管理者と一体になって「みんな育てる」をモットーに情報交換を行いながら、できるを伸ばす指導を心がけている。職員の力量に合わせた指導方法を、指導者が模索することを奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナウイルス感染症の対策のため、同業者との情報交換・交流は直接には不可能な状況である。必要に応じて、メールや電話でのやり取りとなっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	新規ご利用開始の際には、人的物的環境に慣れていただく事、入居者がさみしきや、取り残された気分や、不安にならないことを目標にし、親切で優しい対応、本人のペースに沿った生活、自分らしく過ごせる雰囲気作りを最優先している。積極的に御家族とも情報交換を行い協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	利用開始時に、御家族の心境を把握し、困惑している所、不安・不明確な点を解決するとともに、十分に話を聞き、入居者との関係性を理解することで、何でも相談でき、言える関係を作り、信頼関係を結ぶ。家族の話を遮らないで聞くことを徹底して行い、気持ちを感じ、伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用開始、初期に必要なサービスは様々であるが、グループホーム入居では、他のサービス利用では、医療に関する事、福祉用具に関する事などがあげられる。初期の段階ではできる限り情報収集に努めアセスメントを行い健康状態・ADLの維持向上など、本人・ご家族の希望されるサービスに対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	御利用者、1人の生活者としてとらえ、日々の暮らしが入居者の暮らしとして時間が流れるように、ともに日常生活の様々な事(洗濯・掃除・洗い物・散歩・衣類のかたづけ・趣味の時間)を行い、満足感が味わえる環境にする。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族には成り代われない。コロナ下ではあるが、御家族は「会えないので顔を忘れてしまうのではないかと不安を口にされることが多い。ご家族の話題での会話、写真、ビデオレター、遠目の面会などを取り入れ家族との連絡を密にし、入居者との関係性が希薄にならないようにする。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている。	誰にとっても、大切な場所や人がいる。既に存在しなくなっている場合もある。コロナ感染対策の為に、面会できない状況が続く中、少しでも家族やなじみの場所との関係性が続くように、工夫をしている。手紙や贈り物が届いた場合には、電話で会話をするなど行っている。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロア内での利用者様の関係作りは日々行っている。会話が弾み楽しそうに笑いが起きる場面や、唱歌や童謡を誰ともなく歌われ大合唱になることもある。スタッフが、コミュニケーションを図りながら雰囲気作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も挨拶状を送ったり、写真を送ったりしている。家族からも現状の経過、電話等があり、施設を離れても関係作りは大切にしている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人お一人の人生を、出来るだけご本人御家族から教えてもらい、本人の希望や意向を把握するようにしている。ご本人の考え方や、経歴から今どのように過ごしたいのかを想像して、チームで共有し、ケアに生かすようにする。職員ではなく、本人だったらどう考えるかを問い合うようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ライフスタイルヒストリーをもとに、本人・家族の若い頃の写真や、普段のお話から生活歴を知り、ご本人と会話の中で経歴やそれに対する本人の感情を知るとともに、職員同士で情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の体調やADL、嗜好や生活習慣を把握して、その人らしくマイペースでの生活を送っていただけるように対応する。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者のニーズに合わせて、本人・家族・スタッフ間で意見交換・情報交換を行いながら、利用者らしい生活を支援できるように介護計画を作成している。毎月担当職員がケアプランのモニタリングを行いケアの方向性を示し共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録には、生活の様子や、体調などが把握できるように記録している。変化があった場合や介護方法の変更などは、記録で共有できるようにしている。チームで共通の記録を行い、統一したケアを心がけている。毎月、計画の実践を評価しモニタリングを共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	感染対策が最優先での、施設生活の中2ユニット間の行き来は行えている。家族支援が一番難しくなっている現状を踏まえて面会方法の工夫や、感染対策下での外出・会食など取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナ感染症対策を最優先として施設サービスを行わざるを得ない状況であり、地域資源との協働は難しい状況であるが、新緑ドライブ・花見・気分転換ドライブ・散歩では施設外で季節を感じリラックスできるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ選びは、御利用者の意思を尊重して行っている。18名の利用者で、6か所のクリニックにかかっている。往診での診療が多いが、緊急時の連絡は取れるようになっており、体調不良時の相談に応じてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護を受けている。日々のバイタル測定は看護師が行うことが多い。新型コロナウイルス感染症の蔓延もあり酸素濃度測定も行っている。介護と看護の連携により、皮膚剥離の処置・ポジショニングなどが行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調変化時の病院連絡・ご家族対応を行っている。入院時の情報提供、病院のソーシャルワーカーと連携し退院日の決定・状態確認・受け入れ準備を行っている。家族とともに、情報共有をした上で早期退院できるようにしている。その際、家族の病状理解への助言や退院後の施設生活のイメージ、不安緩和に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期における対応の希望や考えを御家族から情報を早めに得るようにしている。普段の御家族との関係をより良いものにし、家族の希望を知り当施設でできる介護を十分に説明理解を得るように心がけている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変、誤嚥窒息、転倒転落に加え新型コロナウイルス感染症感染対策などの研修を開催している。参加できない場合には、読み合わせや、感想を述べ合うことで理解を深めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域との「災害時協力体制」を締結し協力体制を整えている。消防訓練は年2回行っている。災害時の備品・食料の点検や、連絡網の確認などを定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者は、名字に○○さんと呼ぶ。あだ名やちゃんづけでは呼ばないように徹底する。排泄介助時には、ドアを必ず閉めておく。入室時にはノック、本人に断って入室するなどを行う。不安な訴えや記憶錯誤などにも否定や指摘ではなく、傾聴の姿勢を常に持ち優しく親切に対応するようにして尊厳を傷つけない対応をする。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ささやかな事であっても、ご本人の気持や希望を表出できるような問いかけや関係の構築をするように注意している。職員主導で時間が流れないように、配慮する。日々のケアの中で、利用者の希望の表出ができる様な声かけについて、ミーティングで話し合いを持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は、利用者全員の様子を把握しながら、一人一人との関わりを持つようにしている。しっかり話を聞いたり、楽しい会話をしたりすることで、その人らしさが出せるものである。入浴は個別対応となるので、ゆっくりと話を聞いている。業務優先ではなく、手を止めて利用者の言葉に耳を傾けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容・整髪時にお化粧をされる方もおられるので対応している。理美容サービスを入れ、白髪染めやパーマを定期的に行っている。また、衣類の選択は本人の意向を尊重するようにしている。髭剃りも毎日行うようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、人にとって最も身近な楽しみと言える。また、準備や片付けに関わるのも役割を果たしたり、役に立つという実感を持てるチャンスであるので、毎回茶わんふきなどを利用者と一緒に行うようにしている。季節や行事に応じた食事、誕生日のケーキ、季節の果物などを楽しむようにしている。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量のチェックは全員行っている。必要に応じて、体重測定、細かな摂取量の把握、水分摂取量把握を行っている。貧血・栄養状態を見ながら、栄養補助食品、嚥下障害に対応した食事内容などを工夫し、楽しむ食事、栄養満点の食事を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔衛生・ケアを行い、問題が生じた場合には歯科に相談を行っている。義歯管理や口腔内の観察を習慣的に行っている。口臭がきつい方は、主治医に相談したこともある。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄は一人一人チェックを行っている。排泄行為時の転倒予防や安全確保には十分に配慮し環境を整えている。介護5の方も、ポータブルトイレを使用し座っての排便を行っている。解説パターンを知り、排泄行動の転倒リスクを低減したことで、リハパンから布パンツに移行できたケースがあった。排泄習慣を把握し、自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排便習慣を知り、体を動かすことや、水分・乳製品の摂取・食事の工夫などを行っている。看護師による腸蠕動確認や直腸内の便の確認を行い対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	状態により、個浴・機械浴を選択している。入浴は最高のリラックスタイムになる、職員とも個別でのかわりをゆっくり持てる時間にもなっている。入浴に拒否的な方には、なじみの関係作りや複数人でのかわりの持ち方などの工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の年齢・体調・精神状態に合わせて、休息を取ってもらうようにしている。夜間の覚醒には、お付き合いをして、気持ちよく再入眠できるように関わっている。睡眠パターンを知り、共有しケアに生かしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の内容、使用目的などを共有するようにしている。不穏や不安には薬に頼るだけでなく、対応を検討する。浮腫や高血圧、徐脈など主治医と連絡を取り情報提供しながら内服薬のコントロールを行い、体調を整える。服薬ミスが無いように、ルール化して確認を怠らない介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の生活リズムを整え、役割を持ってもらうようにしている。(洗濯もの、食器など)誕生会、花見ドライブ、息抜き散歩・ドライブ、敬老会などお楽しみはその日だけでなく準備段階から、利用者を巻き込んでワクワクしてもら得るように工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な外出は、新型コロナ感染対策下では難しいが、敷地内で戸外を歩いたりして気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は、新型コロナ感染対策のため、御家族との外出、職員との買い物などは一切行っていない。ワクチン接種も済み、コロナ対策が緩和されたら行いたいと思う。		



自己評価	外部評価	項目 (アルペンローゼ・エーデルワイス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	新型コロナ感染対策のため、面会が一切できず、外出もままならない日々である。電話やビデオレター、などを使い御家族との交流を行っている。差し入れを持ってこられた時に、離れた距離で姿を見ていただくなども行って、顔を見てもらう機会を作っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	明るくなったらカーテンを開け、ご自身で天気を確認できるようにしている。午前中の日差しを使って日向ぼっこを取り入れている。季節の花（アジサイ・彼岸花・カーネーション）を飾ることで季節感を出している。カウンターを使ってお茶をしたり、ソファを置いて休憩できるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間での、テーブルの配置で、仲のいい方が談笑できるように、また、トラブルが発生しにくくなるように工夫をしている。カウンターやソファなど遠慮なく利用してもらえるように声をかけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の家具は持ち込んで頂き慣れ親しんだものを使ってもらっている。家族の写真などを置いたり、自分の習字などの作品を飾っている方もある。転倒リスクが最低限となり、ご本人が安心できる空間を提供できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はバリアフリーで、ベットや家具・椅子などのレイアウトは自由に決める事が出来るようにしてある。利用者の身体状況に応じた快適な空間作りを行う。居室内では、自分なりに自由に過ごしていただくようにしている。		

V アウトカム項目(アルペンローゼ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	✓	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	✓	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		③たまに
		✓	④ほとんどない
66	職員は、生き活きと働けている		①大いに増えている
		✓	②少しずつ増えている
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		③あまり増えていない
			④全くいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
71	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
73	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 IGLグループホーム西風新都

作成日 令和3年11月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	感染症のために運営推進会議を縮小しており、外部の方に参加していただけ図、意見交換ができない。	運営推進会議に参加されていた方々の意見を頂き、当方の介護サービスに活かしていく。	運営推進会議の内容送付とともに、ご意見・感想を頂けるようにし、返信内容を職員で共有する。	1年間
2	36	入居者に対してニックネームや「お母さん」と呼んでしまうことがある。	利用者に対する尊敬の気持や、接遇などの態度の表れとして名前で呼ぶようにする。	日常の中での意識付け 毎月のケアミーティングで確認する。	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。